

## コラム② 伝説？それとも昔話？

これまで、佐伯区の『あまんじゃく伝説』をはじめ、『雨蛙不孝』、『鳶不孝』、『橋杭岩の伝説』、『うりこ姫とあまのじゃく』など、いろいろなあまのじゃく話を紹介しました。

いずれも口から口へ語り伝えられたもので、これまでは「昔話」と一括りにしていましたが、正確には「伝説」と「昔話」の二つに分類されるようです。

1 まず、「伝説」と「昔話」の意味について、「広辞苑」などの辞典で調べたので、紹介します。

	伝 説	昔 話
広辞苑	・神話・口碑などの「かたりごと」を中核にもつ、古くから伝え来った口承文学。羽衣伝説	・民俗学で口承文芸の一つ。 <u>具体的な事物と結びついて語られる伝説と異なり、空想的な世界を内容とし、冒頭が「むかしむかし」などの句をもって始まるのが特徴。</u>
精選版日本国語大辞典	・多くの <u>歴史上の人物や特定地域の自然物、事件などと結びつく現実性を有する点で、娯楽のために創作された空想的物語である昔話と区別される。</u> 自然伝説、英雄伝説、民間信仰伝説など、その種類は多い。	・「むかしむかし、あるところに」などのことばで語り始め、 <u>内容は空想的で、子どもなどに語り聞かせる物語。</u> 花咲爺・桃太郎・舌切雀・猿蟹合戦・かちかち山などの類。
日本民俗大辞典	・一般にはイワレ、イイツタエなどと称され、 <u>土地に根差した形で伝承。</u> 伝説は集団の一員としての社会性、アイデンティティの獲得を第一義とする。かつての <u>村落社会における成人の不可欠な知識</u> であった。	・ <u>すべてが漠とし、今は昔とか昔々あったとき</u> とかいふばかり、 <u>どことも誰ともまったく当てがない。</u> ・ <u>童幼の個人的な情操の涵養の一面を担う。</u>
日本大百科全書	・元来が真実と信じられる事件、それにまつわる話。 <u>事実であった証明として、記念品もしくはそこでの事跡を用意する。</u>	・ <u>そもそもが空想力や虚構性にゆだねられた、物語性の強い内容。</u> そこでの真実性もしくは現実性の期待は認められない。



2 民俗学者の柳田国男も、「日本の昔話と伝説」（発行所 株式会社河出書房新社）の中で、伝説の特徴を明らかにするために、民間説話（主要なものが昔話）と比べ、次の三つの違いを挙げています。これは、1の辞典内容と合うものです。

① 形がない ② 信じられていた ③ 必ず一定の土地又は事物に固着している

なお、柳田国男は、「日本伝説名彙（めいい）」（発行所 株式会社日本放送出版協会）において、伝説のよりどころとなっている個々の地物による分類を行っています。具体的には、「木」、「石・岩」、「水」、「塚」、「坂・峠」、「祠堂」の6分類です。

3 1, 2の考え方により、今まで紹介してきた話を「伝説」と「昔話」に分類すると、次の仕分けになるでしょう（伝説の（ ）内は、よりどころの地物と考えられるもの）。

<伝説>

<昔話>

『佐伯区のアマンジャク伝説』（津久根島の墓）  
『橋杭岩の伝説』（橋杭岩）  
『アマンジャクの星とり』（星とりの岩）  
『あまのじゃくの雨乞い』（帯岩の淵）

『雨蛙不孝』  
『鳶不孝』  
『うりこ姫とあまのじゃく』

4 最後に、柳田国男が、「日本の伝説」（発行所 株式会社角川学芸出版）において、伝説と昔話の違い・関係を面白い表現で説明していますので、ご紹介します。

「伝説と昔話とはどちらがうか。それに答えるならば、昔話は動物のごとく、伝説は植物のようなものであります。昔話はほうぼうをとびあるくから、どこに行っても同じ姿を見かけることができますが、伝説はある一つの土地に根を生やして、そうしてつねに成長してゆくのであります。雀や頬白ほおじろはみな同じ顔をしています。梅や椿は一本一本に枝ぶりが変わっているので、見覚えがあります。かわいい昔話の小鳥は、多くの伝説の森、草叢くさむらのなかで巣立つが、同時に香りの高いいろいろの伝説の種子や花粉を、遠くまではこんでいるのも彼らであります」。

この考えによるならば、かつて、海を隔てた中国のある地方で生まれた伝説（第4章の③）の森、草叢から巣立ったと思われる、昔話の小鳥（『雨蛙不孝』、『鳶不孝』）が、伝説の種子や花粉をこの佐伯区海老山周辺まで運んできて、当地の『アマンジャク伝説』が生まれ、育ったのかもしれない。